

MIYU



Co-creation

宮城大学
研究推進・地域未来共創センター

MIYAGI UNIVERSITY

Center for the Cooperation of Community
Development and Research Promotion

Contributing to the development of our region

—

Collaborative research & contract projects

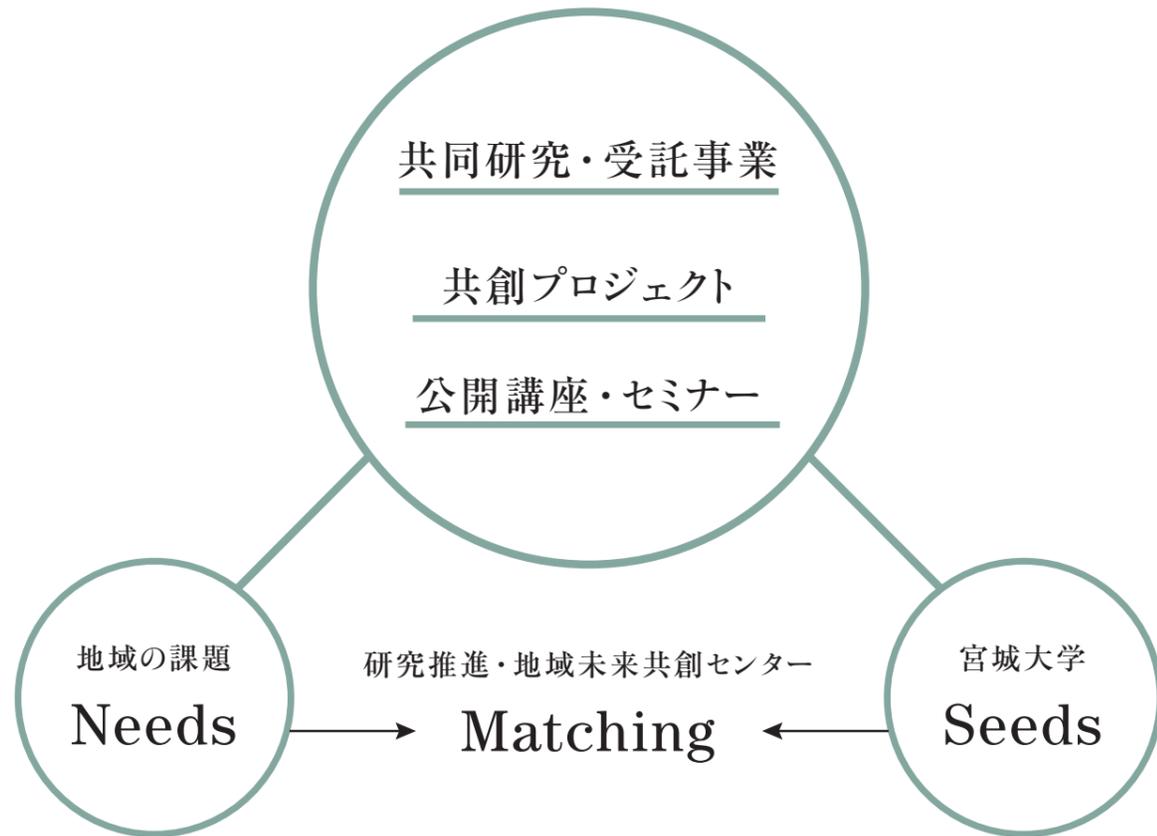
Co-creation projects for sustainable society

Open lecture & seminars

地域の発展に貢献，多彩に共創をコーディネート

企業や地方自治体・機関・団体の皆様のニーズや課題にお応えするために，研究推進・地域未来共創センターは宮城大学の多彩な人材・研究・技術・ノウハウなどを活かしながらイノベーションや活性化の解決策を生み出していきます。

そして，地域産業の発展や魅力的な地域づくりなど地域の可能性を広げるために，従来の手法や領域に留まることなく，さまざまな分野で共創し，宮城大学のミッションの一つである地域への貢献を目指します。



Supporting Regional Developments in Miyagi, Tohoku & Japan

コーディネーターが本学の研究シーズを地域へ発信することで，あらゆるステークホルダーとの研究を推進し，地域の未来を共創します。



コーディネーター

専任コーディネーターが研究推進・地域未来共創センターに常駐し，それぞれの専門分野を生かしてご相談に対応します。また，各学群にも教員からなる兼務コーディネーターを配置しています。



MYU Seeds

学外との連携をスムーズに行うため，教員のシーズを Web にて公開しています。



研究推進・地域未来共創センター長 メッセージ

東北地方は，美しい自然環境に支えられた豊かな地域産業が育まれてきましたが，東日本大震災により大きな打撃を受けました。震災から10年が経過した今，東北の新しい未来を創造する時期が来ています。宮城県は，「新・宮城の将来ビジョン」を策定しましたが，その政策推進に向けた横断的な視点として，「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」を踏まえ，10年後の宮城の将来像と，さらにその先，私たちの子や孫の代まで安心して暮らすことができる「持続可能な未来」の実現を目指しています。本学においても，「第3期中期目標」に向けた

指針として地域に開かれ，地域と共に発展する使命を果たしながら，研究推進により得た成果を発信する「知の拠点」を目指していきます。研究推進・地域未来共創センターは，この指針に基づき，宮城大学の横断的な教育・研究を推進するとともに，その成果や知的財産を活用し，企業，自治体，学術・研究機関，金融機関，団体等との共同研究や連携プロジェクトを進めてまいります。そして，東北・宮城における様々な地域の資源や人材が連携するプラットフォームを構築することで，真に豊かで持続可能な地域社会を実現してまいります。



研究推進・地域未来共創センター長
風見正三教授

事例紹介

共同研究・受託事業

本学の教員が有する研究シーズを活用し、企業や地方自治体が抱える課題の解決を支援します。共同研究においては、コーディネーターが教員とのマッチングや契約、進捗管理を行うとともに、研究資金の獲得に向けて各種外部資金の情報提供や申請支援を行います。受託事業においては、コーディネーターが企画段階から相談者と連携して、体制づくりや教員とのマッチングを図り、より良い実践計画を作成します。各種調査、グループワーク、フィールドでの実践等を支援し、さまざまなステークホルダーと連携しながら課題解決に取り組み、地域の発展に貢献します。

1. 東松島市「森の学校プロジェクト」
2. 分身ロボットOriHimeを使ったICT在宅農福連携モデルの実証実験
3. 日本電子株式会社とのDARTTM-MSを活用した食品研究
4. 仙台市消防局のプロモーションデザイン
5. コロナ禍の観光ツール「秋保観光PR動画」の製作
6. 大崎市民ギャラリーでのデジタルメディアデザイン展の開催
7. 仙台産雪菜を使用した加工品レシピ開発



公開講座・セミナー

宮城大学は地域に開かれた大学として、本学の教育や研究の成果を広く地域の方々に還元するため、公開講座・セミナーを開催しています。公開講座では、健康づくり、地域の歴史、食品の美味しさ・安全など本学の研究シーズに基づき、わかりやすく講義します。また、企業や地方自治体等との連携による研究の推進・共創に向け、シンポジウムやセミナーを開催しています。大和キャンパス交流棟2階には、地域との交流拠点として多目的に利用できるオープンスタジオ“PLUS ULTRA”を設けており、研修会やワークショップなどを行っています。



共創プロジェクト

多様なセクターによる連携プロジェクトの創出を進めます。「産官学民」による連携に加えて、地域コミュニティやNPOといった多様な組織のネットワークを形成し、地域社会の課題に対して、各セクターが持つ技術やアイデアを集結しながら解決を目指すとともに、新しい地域の魅力を共に作り出すプロジェクトを生み出します。これまで、学生団体によるプロジェクションマッピングの実施、大和町議会懇談会での議員と学生によるオンライン会議ツールを活用したワールド・カフェ形式の交流、行政・大学・NPO・市民等の協働によりつくられた利府町の公共施設「tsumiki」プロジェクト（グッドデザイン賞受賞）を行ってきました。

1. 白石市の現地フィールドワーク「コミュニティ・プランナー実践論」
2. 泉パークタウン寺岡地区の地域住民との交流会
3. 大崎市有備館まつりでのプロジェクションマッピング
4. 大和町議会との懇談会
5. 大和町ワイナリーのプロモーションツールのデザイン
6. 産官学民による利府町「tsumiki」プロジェクト



相談手順 | Consultation procedure

1 相談 Consultation

コーディネーターが相談者から相談事項をお聞きします。相談内容の秘密は厳守します。

2 検討 Examination

学内にて相談事項と教員の専門分野とのマッチング性を考慮して、教員による対応の可能性について検討します。

3 マッチング Matching

コーディネーターが相談者と教員をマッチングし、相談事項への具体的な対応策について、ともに検討します。

4 契約 Contract

具体的な対応策が得られた場合は、共同研究や受託事業など実施に向けた契約を締結します。契約では、実施内容のほか期間や予算を設定します。

5 実施 Implementation

契約内容に従って、調査や研究を実施します。コーディネーターは情報を共有しつつ進捗管理を行います。

6 展開 Development

コーディネーターは調査や研究結果の報告にとどまらず、活動の発展へ向けて外部資金の獲得など必要な支援を行います。



宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY



宮城大学 研究推進・地域未来共創センター
発行：2021年4月 発行者：宮城大学 研究推進・地域未来共創センター
TEL: 022-377-8319 FAX: 022-377-8421 E-mail: chiren@myu.ac.jp